



翔工

大分大学理工学部(工学部)
同窓会機関誌

第
34
号

大分大学理工学部(工学部) 同窓会「翔工会」
〒870-1192 大分市旦野原 700 大分大学理工学部内
電話 097-554-7823
令和6年3月18日発行

機関誌「翔工」第34号の発行にあたって

同窓会長 戸 高 孝



機関誌「翔工」第34号をお届けいたします。同窓生の皆様におかれましては、益々ご活躍のことと存じます。また、平素より理工学部同窓会の活動に対しますご支援とご協力に心より厚くお礼申し上げます。

昨年度より、会長を仰せつかりまして、何とか任期の2年を終えることができそうです。

令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症については5類に変更され、大学では対面講義に戻り、学園祭もでき、学会活動などの出張の制約も無くなりました。評議員会も対面とオンラインのハイブリットで、且野原キャンパスで開催いたしました。もちろん懇親会も盛況に開催されました。

令和5年4月より、理工学部は改組され、プログラム制を導入して、機械工学プログラム、電気エネルギー・電子工学プログラム、知能情報システムプログラム、生命・物質化学プログラム、建築プログラム、知能機械システムプログラム、数理科学プログラム、物理学連携プログラムと地域環境科学プログラムの9プログラムで新たにスタートしました。一方、政府をあげて推進しているデジタル推進人材の育成(2022年度からの5年間で230万人)の必要性から、理工学部に「DX人材育成プログラム(定員40名)」が令和6年4月より設置されることになり、現在の定員数355名

から395名と増えて、10プログラム体制となります。定員増が追い風となり、施設・設備の拡充が進み、理工学部の強みが増すことが期待されています。また、懸案事項でした大学院の博士前期・後期課程は、令和7年4月からの改組に向けて準備の真最中です。

また、話題のChatGPTをはじめとする生成系AIが飛躍的な発展を遂げており、日常生活、研究やビジネスシーンで既に幅広く活用されています。画像や音声、テキストなどさまざまなコンテンツを手軽に生成できる生成系AIによって、業務の効率化や新たなアイデアの創出など、多くのメリットが期待されており、大学でも生成系AIで何が出来るのかについて講義で取り上げられ、講演会も開催されるようになってきました。社会を発展させるためには、新しい技術や考え方を進んで取り入れて応用することが求められるので、正解のない社会の課題に対して納得のいく解を見出すために利用できるツールになると考え、大分大学では、使用上の問題をよく理解した上で活用していく方向に進んでいます。

さて、同窓会では、在学生を元気にする支援事業を行う目的で、ワーキングを立ち上げて、月に1度のペースで検討を行ってきました。まずは、今年4月初旬に著名な研究者の講演会を開催する準備をしています。また、ロボットコンテストやベンチャービジネスコンテストに積極的に参加しようと考えて行動している学生の

活動に対して、補助金や指導支援を行うことを計画しています。入賞などの成果ができましたら、この機関誌でもご報告させていただきたいと思っております。

最後になりましたが、同窓会の活動に、より一層のご理解とご協力をお願いいたしますとともに、同窓生の皆様の益々のご発展を祈念申し上げます。

学部長からのご挨拶

理工学部長 理工学部教授 小林 祐 司



同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。越智義道前学部長から令和5年度（2023年度）より理工学部長のバトンを引き継ぎました小林祐司と申します。就任時点では49歳（現在ようやく50歳）とまだまだ経験不足ではありますが、皆様のご指導のもと、大分大学、そして理工学部の発展のために努力してまいります。

まずは大学の様子からお伝えいたします。COVID-19による社会の混乱、経済の低迷から脱する流れが加速した2023年度だったのではないかと思います。子ども達や若い世代には待ちに待った日常が取り戻せました。今後も大いに楽しんでほしいと思います。一方で、私自身、大人としてもっと何かできたのではないかと反省をせずにはられません。日本の危機管理というものは往々にして「事勿れ主義」であり、社会で起きる物事は一つの面からだけで説明がつかないにも関わらず、社会を強制的に閉じざるを得ない流れになってしまったことは、今後のパンデミックや危機管理対応を考える上でもしっかりと検証をしなければならないのではないかと考えています。当然ながら命や健康を守る仕組みや意識は重要です。しかし、そこを考えながらも「0か1か」の世界ではない「かたち」こそが求められていたのではないかと考えています。未来を担う若者の機会の喪失につながる障壁を排除することも考えられたはずだと感じずにはられません。社会全体で「あるべき姿」を考え直すこと、反省に立つことがいまだに求められているようにも思います。我々自身も、若い世代にとって失われた貴重な時間とその思い、悔しさ、悲しさを決して忘れてはならないと感じています。そして、令和5年5月には感染症法上の位置付けが「5類感染症」へ移行し、秋には実質的に3年ぶりの学園祭も開催され、学内は賑わいと活気を取り戻してきました。学生の皆さんには大いに青春を謳歌してほしい、そしてあの時間を取り戻してほしいと切に願っております。「よく学び、よく遊べ」です。私自身も学生の皆さんがのびのびと大学生活を楽しめるようにこれまで以上に支援をしていきたいと考えています。

さて、理工学部では令和5年度に改組を行い、従来の2学科8コースを1学科9プログラムに、そして大学改革支援・学位授与機構による「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援事業」の採択を受け、令和6年4月に新たに「DX人材育成基盤プログラム」を設置し、40名の受け入れを開始します。1学科10プログラムとなり、組織構成は変更となったものの、再び入学定員395名の学生を受け入れる体制となります。このプログラムは大学院の改組まで想定したもので、学部と大学院をあわせて「DX人材育成プログラム」と総称しています。詳細は理工学部ホームページを

ご覧ください。（なお、私自身は長年お世話になった建築学コース（旧理工学部）を離れ、令和5年4月の改組にあわせて地域環境科学プログラムへと活動の場を移して人材育成に取り組んでいます。）

前にも触れました大学院改組の構想についてご紹介します。今まさに挨拶文をしたためているなか、令和7年4月に現在の工学研究科を理工学研究科へと改組するための準備を進めています。今ある学部及び研究科のリソースをもとに、社会的課題と要請に応える体制や教育プログラムを目指して理工学研究科への再編成を構想しました。具体的には博士前期課程（修士課程）では5プログラムに再編、博士後期課程（博士課程）では3領域に再編する構想となっています。現時点では構想段階であり、今後変更があるかもしれませんが、いずれにせよVUCA時代ともいわれる今日、多様なニーズや不確実性の高い社会の変化に対応し得る人材の育成は不断なく進めていかなければなりません。カーボンニュートラルなどのいわゆるGX（グリーン・トランスフォーメーション）、DX（デジタル・トランスフォーメーション）、そしてその先のあるべき姿でもあるSociety5.0の具現化に向けた取り組みを加速させていただきます。さらに、その先を見据えて機動的に対応し得る体制の構築も今後進めていきます。

さらに、これまで理工学部においては「ミッションの再定義」（平成26年）はなされていたものの、大きな目標としての「柱」を立てた取り組みは目に見える形で進められていなかったのではないかと思います。これは広報戦略上の課題でもあり、学問の追求、研究の魅力を全面に出しながら、学生確保だけでなく、地域にとって必要な大学としてプレゼンスを発揮せねばなりません。そのような意味からも、理工学部長就任にあわせて、理工学部附属「先端技術・GX研究センター」の設置を表明・構想し、皆さんと協力しながら令和6年4月設置に向けて動いています。GXに関わる分野は裾野が広く、持続可能な社会の実現に向けて、理工学系分野では避けては通れない取り組みでもあります。このセンターを拠点として、自治体や地域との連携をさらに進めていきます。また、今後も魅力的な学部として存在し、必要とされるために、機能強化と広報戦略を強化してまいります。

これからの社会や世界がどう変化していくのかは誰にも予測ができません。しかし、科学技術は我々の生活を支え、豊かにするための基盤となる学問であり、そのような意識や責任感、そして豊かな創造性を持ちながら、「より良い、持続可能な社会を実現し、継承する」ことを目指して、これからの社会を支える人材の育成を進めてまいります。

「翔工会」会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたします。そして、本学ならびに理工学部への引き続きのご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。

同窓会連合会行事報告

「大分大学ホームカミングデー 2023」

同窓会長 戸 高 孝

令和5年11月5日に、4年ぶりに且野原キャンパスにおいて「大分大学ホームカミングデー 2023」が開催されました。当日は佐藤樹一郎大分県知事の特別講演会「大分県政と大分大学への期待」の後、学生交流会館のB-Foretで交流会と懇親会が開催されました。当日は県内外から多くの同窓生が集まり、懐かしい恩師や旧友との交流を深めました。ホームカミングデーは、大分大学の現状について同窓生に報告し、本学に対

する意見や提言をもらう場であり、同窓会相互の交流を目的に2005年から開催されています。

交流会では、各学部の現状報告や各同窓会の近況報告等が行われ、懇親会では、学生混声合唱団サークル「コール・レティッヒ」と「吹奏楽部」による合唱や演奏、ならびに「よさこいサークル獲天」によるパフォーマンスが披露され、会場は大盛り上がりしました。



秦同窓会連合会長挨拶



学生サークルによるパフォーマンス

「同窓会交流会 in 北九州」

同窓会長 戸 高 孝

令和5年12月16日（土）に北九州市の「リーガロイヤルホテル小倉」にて、4年ぶりに地区別交流会「大分大学と同窓会連合会との地区別交流会 2023in 北九州」が開催されました。当日は、福岡県内外から多くの同窓生が集まり、懐かしい恩師や旧友との交流を深めました。北九州は久しぶりの訪問でしたが、『銀河鉄道 999』のメーテルと星野鉄郎の銅像があり、思わず写真をとりました。

交流会では、各学部長からの現状の説明、同窓生からは近況報告がなされ、参加者は熱心に耳を傾けていました。「翔工会」からは福岡支部の副支部長の深田啓輔氏から、近況報告をしていただきました。会場を移しての懇親会では世代や出身学部を超え、大いに親交を深め、大盛況のうちに幕を閉じることができました。「翔工会」からの参加者が4名だったのが、少し寂しかったです。



メーテルと星野鉄郎の銅像 (JR 小倉駅)



福岡支部副支部長・深田啓輔氏

大分大学の特許を JIS 化

戸 高 孝

大分大学が所有する特許第5048139号「鉄損分布測定装置」を基にモータ鉄損可視化装置を活用した測定方法が日本産業規格（JIS）として制定されました。

具体的には、日本産業規格 JIS C 2541「赤外線カメラによる鉄心表面の損失分布の熱的測定方法」として認められ、令和5年12月20日（水）に日本規格協会名で経済産業省から

公表されました。赤外線カメラによりモータ鉄心等に発生した損失を分布で評価できる点が特色です。非常に僅かな温度上昇（時間的）を計測することで、赤外線カメラのピクセル分解能で詳細に損失を計測できます。EV用のモータの特性改善や開発などに有効に利用できる技術です。写真は、12月22日（金）に開催された県知事の報告会での記念写真です。



県知事報告会での記念写真



日本産業規格 JIS C 2541

令和5年度評議員会報告

同窓会長 戸 高 孝

令和5年11月25日（土）に「翔工会」評議員会が久しぶりに旦野原キャンパスで開催されました。耐震工事や研究棟の増設、生協、図書館や寮の改修やコンビニのオープンなどで、キャンパス内も随分変わってきています。今回は対面とオンラインのハイブリッドでしたが、コロナ禍で対面会議ができなかった分、多くの参加者を得て審議も深まりました。特に第五号議案では、理工学部学生の支援事業について、ワーキンググループで検討してきた内容、予算やスケジュールが紹介され、次年度実施が

了承されました。具体的には、令和6年4月3日に東京理科大学の山本貴博教授を招き、講演会を実施して、学生の研究や企業化精神を啓発し、同時に自ら行動する学生に対して、ロボコンやビジコン等の活動支援を行うもので、これに伴う情報発信のため、ホームページ改定や名簿管理システムを導入する内容も含んでいます。また、次年度の開催は大阪支部で開催予定として幕を閉じました。



評議員会記念写真 (207号教室)



評議員会懇親会風景 (大分市居酒屋にて)

同窓会活動状況

令和5年度の活動状況および現在の理事、評議員の名簿を以下に掲載いたします。

■ 活動状況

§ 令和5年5月11日（木）

同窓会ワーキンググループ（オンライン開催）

§ 令和5年5月31日（水）

同窓会ワーキンググループ（オンライン開催）

§ 令和5年6月20日（火）

同窓会ワーキンググループ（オンライン開催）

§ 令和5年7月18日（火）

同窓会ワーキンググループ（オンライン開催）

§ 令和5年8月23日（水）

同窓会ワーキンググループ（オンライン開催）

§ 令和5年9月3-8日

第1回 理事会（オンライン・書面会議）

議題

- (1) 令和4年度収支決算書（案）について
- (2) 令和5年度予算書（案）（本会を省く）について

§ 令和5年9月22日（金）

同窓会ワーキンググループ（大分開催）

§ 令和5年10月9-13日

第2回 理事会（オンライン・書面会議）

議題

- (1) 令和4年度収支決算書（修正案）について
- (2) 令和5年度予算書（修正案）について

§ 令和5年10月22-27日

第3回 理事会（オンライン・書面会議）

議題

- (1) 令和5年度の評議員会の開催について
- (2) 評議員会の議案書（案）
- (3) 令和4年度の事業報告（案）
- (4) 令和5年度の活動計画（案）

§ 令和5年11月5日（日）

大分大学ホームカミングデー 2023 開催

（学生交流会館：B-Foret）

§ 令和5年11月9日（木）

同窓会ワーキンググループ（オンライン開催）

§ 令和5年11月25日（土）

第1回 評議員会（旦野原キャンパス開催）

議題

- (1) 令和4年度事業報告

(2) 令和4年度決算報告・監査報告

(3) 令和5年度事業計画（案）

(4) 令和5年度予算書（案）

(5) 理工学部学生の支援事業について
今後の同窓会の体制と運営について
報告事項
その他

(6) 令和6年度評議員会開催予定（案）について

§ 令和5年12月14日（木）

第4回 理事会（オンライン・書面会議）
議題

(1) 機関誌の発行計画について

§ 令和5年12月16日（土）

同窓会交流会 in 北九州

（北九州市：リーガロイヤルホテル小倉）

§ 令和6年2月1日（木）

第5回 理事会（オンライン会議）

議題

- (1) 機関誌「翔工34号」の編集について
- (2) 卒業祝賀会および卒業記念品、退職記念品について
- (3) 令和5年度評議員会報告
- (4) 講演会の開催について
- (5) 役員の交代について
- (6) 卒業生の住所調査について
- (7) その他

§ 令和6年2月5日（月）

同窓会ワーキンググループ（オンライン開催）

§ 令和6年3月6日（水）

同窓会ワーキンググループ（オンライン開催）

§ 令和6年3月中旬

第6回 理事会（オンライン・書面会議）

§ 令和6年3月18日（月）

機関誌「翔工第34号」発行予定

§ 令和6年3月24日（日）

卒業生祝賀会開催予定

■ 支援助成事業等

§ 学科・留学生補助：留学生友の会（年会費）
各部会の学科行事補助（講演会補助など）

■理事名簿

会長 戸高 孝 (電気昭 58 卒)
 副会長 松尾 孝美 (エネ昭 55 卒)
 会計 楠 敦志 (電子平 2 卒)
 顧問 新見 昌也 (機械昭 59 卒・61 院修了)
 斎藤 国壽 (機械昭 53 卒)
 森 勝浩 (機械昭 63 卒)
 藤澤 徹 (電子平 5 卒・7 年院修了)
 雲井 将文 (電気平 2 卒・4 院修了)
 吉野 清己 (機械昭 52 卒)
 菅木 禎史 (電気平 3 卒・5 院修了)
 江口 正一 (エネ昭 54 卒・56 院修了)

理事 齋藤 晋一 (エネ平 2 卒・4 院修了、機械部会長)
 〃 助田 毅仁 (修士課程在学、機械副部会長)
 〃 土井 健汰 (修士課程在学、機械代表理事)
 〃 原 正佳 (電気平 3 卒・5 院修了、電気部会長)
 〃 槌田 雄二 (電気平 4 卒・6 院修了、電気副部会長)
 〃 佐藤 尊 (博士課程平 23 修了、電気代表理事)
 〃 西島 恵介 (組織平 1 卒・3 院修了、組織部会長)
 〃 賀川 経夫 (組織平 3 卒・5 院修了、組織副部会長)
 〃 足立 徳子 (組織平 5 卒、組織代表理事)
 〃 牛ノ濱 三久 (応化平 7 卒・9 院修了、化環部会長)
 〃 一色由貴乃 (修士課程在学、化環副部会長)
 〃 黒木 正幸 (建設平 1 卒・3 院修了、建設部会長)
 〃 富来 礼次 (建設平 10 卒・12 院修了、博士課程 15 修了、建設副部会長)

〃 秋吉 善忠 (建設平 18 卒・20 院修了、博士課程 24 修了、建設代表理事)
 〃 久保 由紀 (修士課程在学、福祉部会長)
 〃 築山 奈津 (修士課程在学、福祉副部会長)
 〃 木村 律 (修士課程在学、福祉代表理事)
 〃 梶田 知弘 (修士課程在学、数理科学部会長)
 〃 来馬 右樹 (修士課程在学、数理科学副部会長)
 〃 丸尾 岳 (修士課程在学、自然科学部会長)

■評議員名簿

大分支部 支部長 飯星 允規 (電気平 17 卒・19 院修了)
 副支部長 塚本 賢治 (知能平 19 卒・21 院修了)
 副支部長 東 宏治 (エネ平 11 卒・13 院修了)
 福岡支部 支部長 小田 誠雄 (組織昭 59 卒・61 院修了)
 副支部長 上田 和徳 (建設平 3 院修了)
 副支部長 深田 啓輔 (化環平 5 卒・7 院修了)
 熊本支部 支部長 柿下 耕一 (電気昭 61 卒)
 副支部長 水野 節 (機械平 14 卒・16 院修了)
 副支部長 本田 恭久 (福祉建築平 20 卒)
 大阪支部 支部長 平岡 学 (機械昭 63 卒・平 2 院修了)
 副支部長 橋本 芳典 (電気平 12 卒・14 院修了)
 副支部長 中矢 繁芳 (福・機器平 16 卒・18 院修了)
 東京支部 支部長 柏原 康彦 (機械昭 56 卒)
 副支部長 後藤 正徳 (エネ昭 57 卒)
 副支部長 豊田 耕一 (電気昭 58 卒)

お知らせ

・退職者の紹介

創生工学科電気電子コースの秋田昌憲教授、福祉メカトロニクスコースの岡内優明准教授、共創理工学科応用化学コースの石川雄一教授、情報基盤センターの吉田和幸教授が令和6年3月をもって退職されます。

・学位取得者の紹介

令和4年度博士学位を取得された方々を紹介いたします。(学位記番号順・敬称略)

東原 純、Yuuki Alejandro Hosaka Ventura

・卒業証明書の問い合わせについて

最近、同窓会に卒業生から卒業証明書の問い合わせが多く見られます。同窓会では証明書等の発行業務は行っておりませんので、卒業証明書等のお問い合わせやお申込みは、下記のところをお願いいたします。

住所：〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地 大分大学理工学部学務係
 電話：097-554-7757 または、7758

研究室だより

「理工学部 知能機械システムプログラムのご紹介」

令和5年度プログラム長 教授 菊池 武士



R5年度 理工学部改組に伴い、「創生工学科福祉メカトロニクスコース」は「理工学科知能機械システムプログラム」にリニューアルしました。私は、この改組のタイミングであるR4年度～R5年度におきまして、プログラム（コース）長を務めさせていただきました。そのような関係で、この新たな知能機械システムプログラムについてご紹介させていただきます。

まず知能機械システム PG の教育理念ですが、「高度福祉社会の実現を支援する能力を持つ技術者を育成するため、先端のメカトロニクス、ロボティクス、サイバネティクス分野に関する教育を行います。学生は、理学系基礎、数理モデル構築力及び高度シミュレーション技術を修得する共に、機械工学、電気工学に関する分野を学びます。これらを基盤としてメカトロニクス・ロボティクス・サイバネティクス分野に関する知見を学びます。」としました。前身である福祉メカトロニクスコースの理念を継承しつつ、AI・ロボティクスなど現在注目されている革新技術にも取り組む人材育成を目指すものとして深化させたものです。

カリキュラムとしては機械工学、電気電子工学、情報通信技術など、従来からのメカトロニクスコースの講義・演習が中心となりますが、一部、医学部先進医療科学科臨床医工学コース（臨床工学技士の育成コース）との合同講義となり、当PG学生は医学部生と一緒に講義を受けることになります。また、3年生の選択科目として医学部講義の一部を受講できるようにしております。研究だけでなく、教育の段階から密な医工連携を実施する新たな取り組みとして、試行錯誤しながら進めている段階です。且野原キャンパスと挾間キャンパスに距離がありますから、学生の移動に伴う時間割設定の難しさなどありますが、福祉マインドを持つエンジニアを養成する当プログラムの教育にプラスの効果があるものと期待しております。R5年度一期生の今後の様子を見ながら、良い教育ができるように進めてまいります。同

窓会の会員の皆様におかれましては、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

最後に個人的なことではありますが、私が本学に着任してR5年度でちょうど10年（前職と合わせて20年）となり、永年勤続者として表彰していただきました。10年、あっという間に終わった印象ですが、変化の激しいこの時代の10年間と考えると大変な重みを感じます。今後も、時代の流れに飲み込まれないように、自己研鑽と学生の教育に邁進する所存です。



2023年度新入生研修における1年生の様子@太陽ミュージアム（別府）

建築学プログラム 教授 鈴木 義弘 先生のご逝去を偲んで

建築学プログラム教授の鈴木義弘先生が本年（2024年）3月末をもちまして定年退職の予定のところ、昨年（2023年）11月28日に逝去されました。先生は平成4年（1992年）の着任以来、33年にわたり本学で建築計画学の教育研究に取り組まれました。その間、平成11年6月、九州大学で「知的障害者の住生活環境と福祉就労施設に関する研究」で博士の学位を取得されました。平成22年5月には青木正夫氏・岡敏江氏との共著「中廊下の住宅～明治大正昭和の暮らしを間取りに読む」により都市住宅学会学会賞（著作賞）を受賞されました。その後も日本住宅の来し方、行く末に関する研究を続けられ、その成果を多数の論文、著書に残されました。学部においては、教務委員長等の重責を果たされました。また、学科においては、建築設計製図の演習の指導もご担当され、実務経験を存分に発揮し建築士の養成に貢献されました。退職後もしばらくの間ご指導を賜りたいという願いがかなわず残念ですが、これまでの学恩に謝意ならびに敬意を表し、心よりご冥福をお祈りいたします。

建築学プログラム長 教授 黒木 正 幸

鈴木義弘先生（研究室ウェブサイトより） <https://www.arch.oita-u.ac.jp/plan/suzuki/index.html>



訃 報

次の方の訃報に接しました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

元大分大学長	光 永 公 一 先生 (令和5年11月26日 享年97歳)	化 環 昭56年卒	實 崎 弘 志 様 (令4年1月)
建築学プログラム教授	鈴木 義 弘 先生 (令和5年11月28日 享年65歳)	化 環 昭58年卒	草 野 洋 介 様 (平21年4月6日)
		化 環 昭60年卒	大 野 光 浩 様 (令3年6月22日)
機 械 昭52年卒	長 嶺 勝 秀 様 (令5年4月26日)	エ ネ ル ギ ー 昭55年卒	伊 東 大 介 様 (令2年9月21日)
機 械 昭54年卒	永 田 秀 晃 様 (令4年12月2日)	エ ネ ル ギ ー 令5年院修	横 田 直 也 様 (令5年10月30日)
電 気 昭55年卒	熊 永 敬 藏 様 (令5年2月)	建 設 昭57年卒	古 閑 一 郎 様 (平30年12月)
電 気 昭63年院修	岡 崎 敏 治 様	建 設 昭57年卒	森 川 能 任 様
電 気 平19年院修	松 本 晃 紘 様 (令4年7月21日)	建 設 昭58年卒	中 島 信 嘉 様 (令5年11月)
組 織 昭57年院修	福 嶋 隆 則 様 (令4年3月3日)	建 設 昭59年卒	近 藤 勝 美 様 (令2年12月)
知 能 平14年卒	水 上 智 博 様 (平27年6月29日)	建 設 昭62年卒	平 山 正 俊 様 (令4年7月)
化 環 昭55年卒	田 口 信 泰 様 (令4年12月18日)	電 子 平10年卒	原 泰 昭 仁 様

大分大学理工学部（工学部）同窓会 Facebookのお知らせ

同窓会副会長 松尾孝美

翔工会のFacebookを、東京支部副支部長の豊田耕一さんに開設していただきました。これから、内容を増やしていきたいと思っておりますので、どうぞ、ご利用をよろしく願いたします。

Googleで、「大分大学工学部同窓会」で検索すると、以下のように、Facebookページを見つけることができます。



翔工会ホームページのお知らせ

・ ホームページのURL

※ ホームページのアドレスが変わりました。

<https://www.alumni.oita-u.ac.jp/shokou/>

機関誌PDFをダウンロードできます。

また、住所変更もできます。

・ ホームページに関する質問や要望

同窓会活動に関する質問、要望等ございましたら、

shokou-request@oita-u.ac.jp

までご連絡ください。



理工学部ホームページのお知らせ

・ ホームページのURL

<https://www.st.oita-u.ac.jp/>

各学科のホームページも紹介しております。

今現在の理工学部・各学科の様子をぜひご覧ください。



編集後記

機関誌発行委員長 理工学科 機械工学プログラム 齋藤 晋一

機関誌「翔工」第34号の発行に関しまして、ご多忙中にもかかわらず、快くご執筆をお引き受けくださいました先生方に厚くお礼申し上げます。また、各部会編集委員、同窓会事務の方々に感謝いたします。

昨年4月より理工学部は改組され、各コースが廃止されて理工学部理工学科に統一されました。また、同窓会の部会も8つの部会に再編されて新しいスタートを切ることとなりました。これからも皆様からのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。ご意見などありましたら、ご連絡いただけますと幸いです。